吐瀉

凍りきった石の浜辺に打ち寄せる、濁った波
そこを俺の言葉がよろよろと歩いている

（おお、うねうねと地面をのたくり回る舞曲が加勢する）

ヘドロから浮き上がる泡のような、ねっとりとした波の泡
俺の言葉はその中で息を呑み、悶えている

（背後から忍び寄る青白い舞曲の、空しい陽気）

俺が怖れているのは、何者かが不在であることに気づくこと
突然に取り残されてしまった空白なのだ

（支配者だけに与えられる空洞の不安）

解決されぬものを創造し、積み上げてゆくこと
それは、既に発見の数の数億倍に膨れ上がっている

（ディジタライズされ、裸にされた鳥の声）

まさに、この俺は世界の窒息に加担している
おぞましい吐瀉物を撒き散らしながら喚いている

（雷鳴）

舞台の上で苦悶に歪む光彩
強制的に整列させられただけの秩序

（無機的、というだけではない素っ気無さ）

喝采の拍手をくれてやろう
彩色を施したこの手袋をはめたままに

（モザイク状に再構築された海水面が襲う）

怒りとは異質な、暴力的で絶望的な破綻
それは原始への逃走に他ならぬ

（ビッグ・バンの亡霊が支配する世界）

吐いて、吐いて、吐く
俺は、とめどなく、吐く

(2010.2.3)